

## 平成28年度第3回岩手県職業能力開発審議会会議録

- 1 開催日時  
平成29年2月10日（金）14：00～
- 2 開催場所  
岩手県産業会館 大ホール
- 3 報告  
平成28年度県立職業能力開発施設における就職内定状況について
- 4 議事  
(1) 第10次岩手県職業能力開発計画（案）について  
(2) 平成30年度県立職業能力開発施設職業訓練実施計画（案）について
- 5 その他
- 6 会議に出席した委員  
**【委員】**

長友 邦宏	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構岩手支部 支部長
田口 典男	国立大学法人岩手大学人文社会科学部教授
椀平 苗都美	職業訓練法人久慈職業訓練協会事務局長
鬼柳 一宏	株式会社アイオー精密代表取締役専務
佐藤 啓子	有限会社オフィス・エスケイ代表取締役
升田 久美子	株式会社川徳婦人服洋品部部長
志賀 弘基	全日本自動車産業労働組合総連合会岩手地方協議会議長
原 利光	日本労働組合総連合会岩手県連合会副事務局長
山谷 一夫	電機連合岩手地域協議会事務局長

  
**【特別委員】**

朝倉 健夫	岩手労働局職業安定部長
川上 圭一	岩手県教育委員会事務局教育次長兼学校教育室長
- 7 欠席した委員  
**【委員】**

加藤 祐子	学校法人スコール盛岡スコール高等学校教諭
眞岩 一夫	岩手県高等学校長協会工業部会長
須田 光宏	株式会社平野組代表取締役社長
高橋 幸恵	株式会社ニチイ学館盛岡支店医療関連事業支店長
鈴木 圭	岩手県東北電力関連産業労働組合総連合会長
森 美枝子	友愛会職員労働組合執行委員

8 事務局出席者

菊池	哲	商工労働観光部長	
工藤	直樹	〃	労働課長
泉田	福典	〃	主任主査
中村	亨	〃	主任主査
岩崎	有喜	〃	主任
徳本	昌弘	〃	主事
藤井	博己	〃	主事

平成 2 8 年度第 3 回  
岩手県職業能力開発審議会

日時 平成 2 9 年 2 月 1 0 日（金）午後 2 時  
場所 岩手県産業会館 大ホール

## 1 開 会

○工藤労働課長 本日もお忙しいところ御出席いただきまして、ありがとうございます。県庁雇用対策・労働室の工藤でございます。いつもお世話になっております。本日進行役をさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、時間になりましたので、ただいまから岩手県職業能力開発審議会を開会いたします。

本日現時点で御出席いただいております委員数は、委員総数 15 人中 9 人ということでございまして、半数以上の出席をいただいておりますので、岩手県職業能力開発審議会条例第 5 条第 2 項の規定により、会議が成立しておりますことを御報告いたします。

## 2 あいさつ

○工藤労働課長 それでは初めに、菊池商工労働観光部長から御挨拶を申し上げます。

○菊池商工労働観光部長 商工労働観光部の菊池でございます。いつもお世話になっております。本日は、このとおりにお足元の悪い中、お集まりいただきまして本当にありがとうございます。また、お忙しい中、時間を割いていただきまして、本当にありがとうございます。

この審議会でございますが、今年度大きなテーマを掲げてやってまいりましたが、御検討を重ねていただき、今日、最終案という形の第 10 次岩手県職業能力開発計画について御答申いただくこととなっております。それに向けて、本日最後の新たな意見交換、お気づきの点があればまた意見交換していただきまして、それをしっかりと反映していきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

県は、いわゆるふるさと振興を掲げて、本格的にいろいろな取組を進めてきておりますが、そういう中で若者や女性の地元定着を推進しなければならぬ。また、そのためにも今働いている方々にとってもより過ごしやすく、暮らしやすく、働きやすく、そして岩手で子育てをしっかりとできる環境を作っていくということ、御案内のとおりですが、昨年はいわてで働こう推進協議会を立ち上げ、6 月にはいわてで働こうをスローガンとする宣言をさせていただくなど、労働環境もいろいろ変わってきてくれればよいということで、オール岩手で、みんなできるところから取り組んでいくということで取組を進めていただいているところでございます。

一方、経済と雇用を支える産業振興につきましても、更に力を入れ、昨日予算の発表をさせていただきましたが、29 年度当初予算におきましても、地域産業の振興等々、いろいろな事業を展開していくこととしておりますので、そちらのほうも目配りしていただきながら、引き続き岩手県の経済、そして雇用、そしていわゆる住むこと、岩手に住み続けることをしっかりと実現していくように県は頑張っていきたいと思っておりますので、よろしく御協力のほどお願いいたします。

本日は、先ほど申し上げましたとおり、最終案についての御検討ということでございます。委員の皆様方、我々の方からもいろいろ報告させていただくこともあります。それらを踏まえてまたお気づきの点など、それぞれのお立場か

ら御意見を賜ればと存じますので、どうぞよろしく願いいたします。

○工藤労働課長 ありがとうございます。

それでは、議事に入ります前に資料の確認をさせていただきたいと思えます。資料は、まず次第と名簿を綴じたものと、それから資料は1から6までございまして、会議で使いますのは資料1から5まででございます。資料の1は、28年度の県立職業能力開発施設における就職内定状況、それから資料2がホチキス綴じしております2枚物でございますけれども、パブリック・コメント実施結果、それから資料3がA3を折ったものでございまして、1枚物、それから資料4がホチキス綴じしております10次の計画案、それから資料5は30年度の職業能力開発施設の訓練実施計画案ということと、あと資料6は後ほど予定しております答申の案ということでございます。

不足等がありましたら、教えていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

### 3 報 告

#### 平成28年度県立職業能力開発施設における就職内定状況について

○工藤労働課長 それでは、議事に入らせていただきますが、本審議会は条例第4条第2項の規定によりまして、会長が議長となって運営するという事となっております。

それでは、田口会長、よろしく願いいたします。

○田口典男会長 今日は、報告が1件、議事が2件予定されております。

それでは、最初の報告事項であります平成28年度の就職内定状況について、事務局から説明をお願いいたします。

○岩崎主任 平成28年度の県立職業能力開発施設における就職内定状況を御報告いたします。

資料の1でございます。こちらの表は、県立職業能力開発施設をこの3月に修了する学生の12月末現在の就職内定状況となっております。各校、各科別の数字が並んでおりまして、表の下の方、全施設の合計を御覧いただきたいと思います。各科、順調に就職内定をいただいております。修了予定者が223名、そのうちの就職内定率が93.1%、うち県内就職率が60.9%となっております。この県内就職率につきましては、本社の所在地が県外であれば県外就職としてカウントしている数字でございまして、この県外企業の中には誘致企業ですとか、県内に事業所があって、配属先を県内事業所としている企業がありまして、こうしたケースを含めて県内就職率にカウントした数字を括弧書きで85.1%というふうに示しております。

また、表の下の方、参考としまして、施設別の求人状況を載せております。各校別の県内企業、県外企業の求人者数となっております。過去3年の状況になっておりますが、毎年増加しております。求人状況は非常に活発な状況となっております。

私からの報告は以上となります。

○田口典男会長 ありがとうございます。ただいまの説明につきまして、御意見、御質問等お願いいたします。

○鬼柳一宏委員 アイオー精密の鬼柳です。今報告いただいた就職内定状況の各学

校の各学科別のところを見まして、私、多少驚いたのですけれども、例えば私どものような製造業に関わる場所ですと、産技短の本校のメカトロニクス科だとか、あるいは水沢校の生産技術科あたりが卒業生が入ってきていただいている学科なのですけれども、本校のメカトロが県内就職率、今年が 28%ということで、去年 87%以上あったところから、だいぶ県内に残ってくれる学生が減ったなというところを感じました。去年とか、県内の企業に絞った合同説明会とか産技短の方でも開催していただきまして、そこにも私どもの会社も参加してきたのですけれども、そういった学校側も一定の配慮をされている中で、ここまで県外の企業を選ぶに至った、学生さんの就職先を選択した理由というところをもし押さえているのであれば教えていただきたいと思いますし、もし押さえていないということであれば、県内企業にとっては県内で育った子供たちが県外に行くというのは、益々人を採りづらくなるという形なので、学校側の方で調査してもらって、例えばフィードバックできるような形にしてもらえれば、また我々がどこのところを頑張ればいいのかというところもわかるのかなというところがありますので、そちらの方よろしく願いできればと思います。

○岩崎主任 先ほど御説明したとおり、県外企業、本社の所在地が県外であれば県外企業としておりまして、メカトロニクス技術科、県外 10 人、生産技術科、県外 4 人となっておりますが、県内に事業所がある会社を県内就職としてカウントしますと、メカトロニクス技術科が純粋に県外に本社があつて県内に事業所がないというのは 2 名、生産技術科については 0 名となっております。ですから、県内に事業所があるケースを県内就職とした場合、メカトロニクス技術科は 85.7%、生産技術科は 100%という数字になります。

○鬼柳一宏委員 メカトロさんのところはわかったのですけれども、要は本社が県外にあるような大手の企業さんに入っているということですよ。傾向としてはですよ。だから、地場にしか事業所を持たないような県内の中小・中堅企業といったところに来てもらっていないということが 1 つ事実としてあると思います。今メカトロの話をしたのですけれども、例えば情報技術科、今回の職業能力、この後審議する方でも IT 人材を育てようという骨子でもってやっている施策があると思うのですけれども、情報技術科というのはそのとおり IT 関係の勉強されている学生さんですけれども、そちらの方も毎年、だいぶ多くの人数が県外の方に就職しているという実態もあるようなので、こちら辺は県内に事業所があつて県内に勤めておられれば、それに越したことはないのですけれども、より県内に残ってもらえるような動き方というのはですか、それが学校さんも企業も一体となつてやれるような状況というのは今後継続してやっていければと思います。

○岩崎主任 参考までに、各校、各科別の県内に事業所がある会社を県内就職率とした場合の数値をお示しいたします。

産業技術短大の本校のメカトロニクス技術科が 85.7%、電子技術科 88.9%、建築科 95.2%、産業デザイン科 75%、情報技術科 50%、産業技術専攻科 100%。

次に、水沢校、生産技術科 100%、電気技術科 82.4%、建築設備科 80%。

次に、千厩校、自動車システム科 88.9%。

次に、宮古校、自動車システム科 100%、金型技術科 66.7%。

次に、二戸校、自動車システム科 100%、建築科 90.9%となっております。

○工藤労働課長 どうもありがとうございます。今の意見もごもつともという  
か、大事な御意見と思えますので、実際今県内に事業所がある会社を県内就職  
した場合の数値というところまで押さえておりましたけれども、おっしゃると  
おり、県外に本社がある事業所の方に就職があるというようなどころを含め  
て、学校を通じて調査して、フィードバックということも検討させていただき  
たいと思います。

○田口典男会長 よろしく願いいたします。

そのほか、御意見、御質問等お願いいたします。よろしいでしょうか。  
（「はい」の声あり）

○田口典男会長 ありがとうございます。

それでは、報告事項はこれで終了いたします。

#### 4 議 事

##### （1）第10次岩手県職業能力開発計画（案）について

##### （2）平成30年度県立職業能力開発施設職業訓練実施計画（案）について

○田口典男会長 次に、議事の方に移っていききたいと思います。

議事の1と2が関連しておりますので、一括して事務局から説明をお願いい  
たします。

○中村主任主査 それでは、資料2につきましてまず御説明をいたします。

第10次岩手県職業能力開発計画につきまして、前回の審議会の際に御報告  
いたしましたとおり、パブリック・コメントを実施いたしました。意見の募集  
期間としまして、平成28年12月14日から平成29年1月13日までの1カ月  
間実施いたしました。

実施の方法ですけれども、県庁にあります行政情報センター及び各振興局に  
ございます行政情報サブセンターなどへの資料の配架、県のホームページへの  
資料の掲載、あと報道機関への発表という方法で実施をいたしまして、意見の  
受付方法といたしましては、郵便、ファクシミリ、電子メールという方法で受  
け付けたものでございます。この結果、電子メールで6件の御意見をいただき  
ました。この6件ですけれども、いずれも意見、内容としましては計画の案に  
賛同していただけたという御意見でございました。

めくっていただきまして、御意見の内容でございます。番号の1のところ  
に、趣旨に賛同するというもの、これが類似の意見件数ということで4件とご  
ざいます。この4件に、下の2番、3番のいずれも趣旨に賛同するという御意  
見を賜りましたので、合計6件でございます。

番号2ですけれども、御意見、趣旨に賛同するとありまして、下の3行です  
けれども、今後本計画が地域の関係機関との連携のもとで効果的に実施さ  
れ、一人でも多くの県民が職業能力の向上を図ることができるよう強く望むと  
いう御意見をいただきましたので、県の考え方としまして、計画案45ページ  
にお示しいたしましたとおり、国、県といった行政機関をはじめ、機構、岩手  
県職業能力開発協会、関係機関及び団体等がそれぞれの役割を明確にして、連  
携を強化し、効率的で効果的な職業能力開発を推進してまいりますというこ  
とで、こちらはホームページに公表しているものでございますけれども、県の考  
え方をお示したところでございます。

その下の3番ですけれども、こちらも趣旨に賛同していただけたということ

で、ただしIT人材等の新たな取組への期待というものはあるのですけれども、下から4行目でございます、従来から取り組んできたこれらの分野への支援施策について、岩手県としての積極的な取組を行うことを切に願い、ともに取り組んでいきたいという御意見でございましたので、計画案38ページに記載のとおり、地域や県内企業が求める人材ニーズを的確に把握した職業能力開発について、関係機関と連携し積極的に取り組んでまいりたいということで、付記したものでございます。

以上が資料2、パブリック・コメントの実施結果でございます。

続きまして、資料3及び資料4でございます。ただいま御報告いたしましたとおり、パブリック・コメントの結果、計画案の内容に修正を要する御意見がなかったということで、資料3及び資料4につきましては前回の審議会から修正はしていないものでございます。

ただし、若干記載の関係で、資料4でございますけれども、資料4の23ページの4の(3)にラグビーワールドカップという大会名が出てまいります。同じように、29ページの下から3行目にもラグビーワールドカップ2019日本大会という大会名称が出てまいります。こちらにつきましてはラグビーワールドカップという名称が大会運営主体の知的財産であるということで、名称を表記する場合は商標を表す、アルファベットで「TM」を表示することとされていることに伴いまして、表記に追加したところでございます。29ページの下から3行目も同様に「TM」と加えたものでございます。

あと、もう1カ所でございますけれども、44ページ6の(1)の①、前回の審議会の際に御意見をいただきまして、応募者、定員充足の状況、企業の人材ニーズというところでございます。前回お示しした案の段階では、「訓練ニーズ」ということでお示ししたのですけれども、「人材ニーズ」に修正するようご意見がありましたことに伴いまして、ここは「人材ニーズ」に修正したものでございます。これにつきましては、各委員の皆様にはパブリック・コメントを実施する通知の際にお知らせをしていたものでございます。今回改めてお知らせするところでございます。

以上が資料4までの御説明になります。

○岩崎主任 続きまして、資料5になります。平成30年度の県立職業能力開発施設の職業訓練実施計画(案)となります。こちらは平成30年度の学卒者訓練の計画でございまして、10次計画に沿って策定しているものでございます。新年度の平成29年4月から翌年度の学生募集がスタートする関係で、この時期に審議会にお示しして審議していただいているものでございます。

計画案としましては、現在の科の構成、定員に変更はなく、引き続き新規高校卒業者を中心とした訓練を産業技術短大9科、高等技術専門校5科、合計14科、定員250名で訓練を実施していくという計画でございます。

表の右側に過去3年の入校状況をまとめておりまして、一番右側、過去3年の平均の入校率を記載しております。科によって入校率に差はあるものの、合計しますと一番下です、過去3年の平均入校率が95.9%となっております。

各科、出口の求人ですとか就職が非常に好調なことから、入口である入校生の確保を訓練の内容を効果的に周知したりですとか、あと良好な訓練環境を整備したりして、入校生の確保に引き続き努めてまいりたいと考えております。

なお、この県立施設のあり方についての検討は継続していきますので、今後計画に変更がある場合は、その都度この審議会にお示しして、御審議をいただ



くということにしております。

以上となります。

○田口典男会長 ただいまの説明につきまして、御意見、御質問等お願いいたします。

○梶平苗都美委員 久慈職業訓練協会の梶平です。

資料5の平成30年度県立職業能力開発職業訓練計画、こちらの方で30年度の計画案で29年度と同様の募集定員を確保しているようなのですが、29年度の学生募集も終盤を迎えているところだと思うのですが、現在の定員に対する充足状況をお伺いしたいと思います。というのは、先日二戸高等技術専門校の校長先生とお話しする機会がございまして、ここ2年、建築科が定員を上回る人員を確保できていたのだけれども、ちょっと今年度苦戦しているという話を伺いまして、私たちもそうなのですが、なかなか職人さんの確保は難しいところとございまして、建築科、今年度どうなのかなというところがちょっと気になるところでございます。

○岩崎主任 平成29年度の入校生の見込みについてですが、産業技術短期大学校については、今度2月15日の水曜日が一般選考の合格発表日になっておりまして、今現在お示しできるのは推薦選考までになるのですが、産業技術短大の推薦選考での合格者数、本校のメカトロニクス技術科が13名、電子技術科が12名、建築科が15名、産業デザイン科が12名、情報技術科が13名となっております。そして、水沢校の生産技術科が14名、電気技術科が15名、建築設備科が18名となっております。概ね半分以上推薦で合格者を出してしておりまして、一般選考で定員を確保できる見込みと現在となっております。

産業技術短大の本校の産業技術専攻科については、1期、2期、3期と3回試験を行っております。今現在2期の選考まで行っております。第3期が3月に選考を行うことになっておりまして、第2期の選考までの合格者が1名となっております。第3期に産業技術専攻科については企業派遣の方を対象とした選考を実施する予定になっておりますので、もう少し入校生は確保できるかなと思います。例年に比べると苦戦しているという状況でございます。

高等技術専門校3校につきましては、一般選考まで試験が終わっております。合格者数は千厩校の自動車システム科が18名、宮古校の自動車システム科が13名、金型技術科が1名、そして二戸高等技術専門校の自動車システム科が21名、建築科が13名となっております。いずれ高等技術専門校につきましては、定員に満たない科については現在二次募集中となっております。ぎりぎりまで定員を確保するように努めております。

以上です。

○田口典男会長 よろしいでしょうか。建築科は、数年前までは定員割れをしていたのですが、ここ2、3年は定員を充足しておりますので、もちろん波がありますので、単年度ではどうこうとは言えないのですが、ほぼ定員を満たしているという状況だと思います。

この第10次の計画案は、過去2回審議していただいて、今回3回目ということになります。大きな修正はなかったと思いますが、これが最終案になりますので、ぜひ皆さんのほうから何か御意見がありましたら、御意見をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○田口典男会長 ありがとうございます。

それでは、第 10 次の開発計画案及び平成 30 年度の実施計画案につきまして、了承ということでよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○田口典男会長 ありがとうございます。

それでは、第 10 次岩手県職業能力開発計画案について、本審議会として知事へ答申したいと思えます。

(答申書手交)

## 5 その他

○田口典男会長 次に、その他に移りますけれども、初めに事務局から何かありますでしょうか。

○工藤労働課長 それでは、私のほうから 1 点ございます。本審議会の委員の皆様は任期ですけれども、今月末までということになってございますし、それに伴いまして何人かの委員さんが今期で御退任という御予定ということでございますので、ここで菊池部長から御礼の御挨拶を申し上げたいと思えます。

○菊池商工労働観光部長 審議会委員の皆様には、今期まで、今月末が任期ということでございますが、非常に精力的に御協力いただきまして、先ほども答申をいただくなど、お忙しいところ、まさに職業能力開発のためにいろいろと御尽力いただきましてありがとうございます。

とりわけ、本日御出席いただいております田口会長さん、鬼柳委員さん、佐藤委員さんにおかれましても引き続きと思っておりますところでございますが、今期限りをもって御退任なさるということでございます。本県の職業能力開発の推進に御尽力いただきまして、本当にありがたく思っております。改めて御礼申し上げます。ありがとうございます。

今後におきましても、先ほど私冒頭でもお話し申し上げましたが、いろいろ職業能力開発、あるいは働き方改革、あるいはふるさと振興に繋がる労働環境、能力開発、そしてその下支えとなる産業振興などいろいろ展開してまいりますので、それぞれのお立場から引き続きの御支援、御協力をお願い申し上げます。御礼の言葉とさせていただきます。どうも本当にありがとうございました。

○工藤労働課長 それでは、今期をもって御退任の御予定の田口会長さんと鬼柳委員さん、佐藤委員さんからも、よろしければ一言ずつ御挨拶をお願いできればと思えますので、よろしく願いいたします。

○田口典男会長 職業能力の開発に携わって 10 年ぐらい経つのですけれども、10 年前の状況と今日の状況は大きく変わっていると思えます。というのは、安倍内閣のもとで働き方改革ということで、新しい働き方というのが求められていると思えます。そのときに、この職業能力開発というのは今後益々重要な役割を担うと思えますので、ぜひ残った委員の方は益々活発な議論を重ねて、いい審議をしていただきたいと思います。

私ごとですけれども、今年の 3 月で岩手大学を定年退職いたしますので、同時に本委員会の委員も辞するというにいたしました。私の拙い司会で皆様に大きな御迷惑をおかけしましたが、皆様の御協力のもと、円滑な審議ができたと思っております。どうもありがとうございました。(拍手)

○工藤労働課長 どうもありがとうございました。

では続いて、鬼柳委員さん、お願いいたします。

○鬼柳一宏委員 鬼柳でございます。8年間本当にいろいろとお世話になりました。ありがとうございました。

私、社会人として10年ほど東京で銀行員をやっている、岩手に戻ってきて今年で16年目になりますが、その約半分、8年間をここの審議会の委員として参加させていただきまして、非常に勉強になることがたくさんございました。この8年間の中でも、今、田口先生がおっしゃられたとおり、だいた企業を取り巻く環境が変わってきていて、少子高齢化で子供の数もどんどん減ってきて、人が採りづらくなっています。また、我々は中国にも工場が2つありますが、中国とか新興国の競争力がどんどん高まり、日本の企業の優位性がだいた薄れてきているという形の中で、どうやって地元の企業として地元根づいて生き残っていくのかという危機感を皆さんと共有した中で議論できればなと思ひまして、事業主側として、その危機感をできるだけお伝えしたいと思ひながらやって参りました。そして地元の子供たちが育った地元根づいて活躍していただけるような環境をつくってもらえればなと思ひて語ってきたつもりですし、少しでも地元の企業の競争力を確保しながら、地元の人たちが地元の職場で働き続けられるような環境を確保できるような形になっていければと思ひていますので、これからもよろしくお願ひします。どうもありがとうございました。(拍手)

○工藤労働課長 ありがとうございます。

では、佐藤委員さん、お願いいたします。

○佐藤啓子委員 オフィス・エスケイの佐藤です。長い間お世話になりました。私は、商工会議所女性会の方から委嘱を受けて、まず女性を取り巻く環境の中での就職に対する意見を述べてほしいということでお世話になったのですけれども、またこういった形で皆さんがいろいろと考えながら、これからの岩手県を担う子供たちを育てる環境を作っているということをもまず一番最初に改めて知って、こういったことは本当に外に発信して、みんなが真剣に取り組んでいるということをおわかってもらう窓口になればいいなと思ひて、今回、私だけが知っていてもだめだろうなと思ひまして、また新しい委員の方に引き継いでいければなと思ひまして、次年度は辞退させていただきました。

また、女性の視点からと、あと若い女性の考え方、やはり田口議長が話していたとおり、大きく変わっていると思ひます、私が子供の頃と、私の中堅クラスになると。今現在18、19、20歳、そのぐらいの学生さんとかその方たちが働くこと、本当に新しい働き方、それに私たちも対処していかなければならないなど。自分たちが残業も残業と思わず働いていたこととか、そういったものも全ていろんな意味で新しい感覚を経営者側も持たなければいけないということをおここで大変勉強させていただきました。またそれも皆様方が公に話せるような状態を作っていければなと思ひていますので、本当に勉強になりましたし、これからは皆さん真剣に考えていただいて本当にありがたいと思ひます。どうもお世話になりました。ありがとうございました。(拍手)

○工藤労働課長 本当にどうもありがとうございました。引き続きよろしくお願ひいたします。

では、事務局からは以上でございます。

○田口典男会長 ありがとうございます。

それでは、総括的な御意見、御質問等ありましたらお願ひいたします。よろ

しいでしょうか。

それでは、予定されていましたが議事は以上で終了いたします。

それでは、事務局にお戻しいたします。

## 6 閉 会

○工藤労働課長 田口会長、本当にありがとうございました。

それでは、予定している内容は以上でございますので、これをもちまして本日の審議会を閉会とさせていただきます。

皆様、御協力いただきましてどうもありがとうございました。